

令和2年3月
第1回清水町議会定例会一般質問事項

質 問 者	質 問 事 項	
議 席 氏 名		
4 中河つる子	<p>1 ごみの減量と生ごみの資源化について</p> <p>(1)昨年4月から、ごみは帯広のくりりんセンターに搬入しており、ごみの分別方法も一部変わった。昨年6月の一般質問で、ごみの排出量の変化について伺ったが、約1年経った現在はどのような状況か。また、その結果を踏まえ、どのように取り組むのか伺う。</p> <p>(2)様々なごみがあるが、ごみを減らすには資源として再利用できない可燃ごみと不燃ごみの量を減らすことが大切である。ごみを燃やせば、温室効果ガス（二酸化炭素）が発生する。不燃ごみは細かく砕き地下に埋められている。「まちづくり計画」の中に、住民一人一日当たりのごみの排出量について、平成21年の820グラムを令和2年には750グラムとする指標を掲げている。また、リサイクル率を平成21年の24.9%から令和2年は28%にする指標を掲げているが、現在はどのようなになっているか。</p> <p>1月15日、新くりりんセンター建設についての説明会で、鹿追町ではバイオマスプラントに牛ふん等と一緒に生ごみを入れ、堆肥化しているとの話を聞いた。また、富良野市では生ごみの堆肥化を含め、ごみの90%を資源化している。以前、当町でも衛生組合でコンポストを斡旋し、今も私は使用している。このように、身近でできる生ごみのコンポスト利用、段ボール箱処理の堆肥化、EM菌を使った処理の仕方など、町発行の「ごみ分別ブック」に載っている生ごみ減量化の実践を進めてみてはいかがか。</p> <p>ごみの量を少しでも減らすために、先進地の例を参考にし、町民と一緒に考え、行動に移していくことが地域の環境を守り、地球環境を守り、次の世代の子や孫たちに引き継いでいくべきと考えるが、町長の考えを伺う。</p>	

質 議 席	問 者 氏 名	質 問 事 項
12	桜井崇裕	<p>1 本町農業の現状と将来像について</p> <p>本町の農業は、順調な畑作に加え、酪農や畜産は生乳生産の増加、乳価や肉牛価格の上昇により農協の農産物取扱高は、史上最高の300億円を越え、管内の24農協においては、3,549億円を達成した。</p> <p>一方で野菜価格の低迷もあり栽培作物による農家間格差が広がった年でもあった。</p> <p>国際的には、環太平洋連携協定（TPP11）、日欧EPA、さらに日米貿易協定が発効され、政府は令和元年度補正予算でそれぞれの対策予算、そして新年度予算が年度内成立の見込みとなっている。</p> <p>また、農政の中長期の指針となる「新たな食料・農業・農村基本計画」が3月に閣議決定することになっている。</p> <p>本町においては、阿部町政が任期1年を残しての締めくくりの年であり、「第5期清水町まちづくり計画」の最後の年でもある。</p> <p>町長が就任されてからの本町の農業政策等についての所見を伺うとともに、「第6期清水町まちづくり計画」にあたっての、本町農業の将来像について、次の3項目を伺う。</p> <p>(1) 公約及びこれまで述べられた執行方針は達成されたか伺う。</p> <p>(2) 本町農業の課題があるとすれば何か伺う。</p> <p>(3) 「第6期清水町まちづくり計画」を策定する中で、本町農業の将来像とは何か伺う。</p>

質 議	問 席	者 氏	事 名	項
9	口 田 邦 男	1	各種交流の現状と今後について	<p>・埼玉県深谷市との交流 渋沢栄一翁の1万円札肖像が決定以来、本町と深谷市との交流が始まり、深谷市の記念式に本町より町長を始めとする各界の代表者が参加して交流の道筋をつけられたことは、誠に意義深いことである。改めて経緯と今後の取り組みについて伺う。</p> <p>・静岡県清水町、和歌山県（旧清水町）、福井県（旧清水町）との交流 当時は、かなり深い交流がなされていたが、現状と今後について伺う。</p> <p>・チェルシーとの交流 近年、参加人数が少なくなっている。 今年度より5年生以上は外国語科が教科となり、外国語の指導には力を入れなければならない。そうした中、海外交流も積極的に進め、多くの子どもが参加できるように考えるべきでは。</p> <p>・東京清水会及び札幌清水会との交流 町長を始めとする代表者は毎年参加している。町の代表として参加しているのであれば、毎年とは言わないが町民に対して様子を知らせるべきだと思いがいかがか</p> <p>2 農業用水の今後</p> <p>御影畑総で行われた農業用水について、当初は農業用水の必要性は大して重要視していなかったが、河川の汚染、井戸の枯渇等により必要性が増えている。 そうした中、地球の温暖化により干ばつが進んできており、畑地灌水が必要になっている。 以上の事から、農業用水の水量増と水圧増により畑地灌水ができるよう大幅改修の必要があると思うが、今後の見通しについて伺う。 同時に、使用料の算出方法の見直しも改めて検討すべきと考えるが、町長の意向を伺う。</p>

質 議	問 席	者 氏 名	質 問 事 項
3	山下清美	<p data-bbox="555 255 898 293">1 防災対策について</p> <p data-bbox="555 353 1410 584">各地で異常気象、地震の災害が頻繁に起こり、本町においても平成28年の大雨被害を経験し、災害に対する心配がある中、町では地域防災計画の第4章「災害予防計画」で、第3節「物資及び防災資機材等の整備・確保に関する計画」により、計画的に整備を進めている。</p> <p data-bbox="579 600 1002 638">そこで、次の項目について伺う。</p> <p data-bbox="579 696 1410 875">(1)防災計画の資料12-1「防災資機材及び救援物資保有状況」では主な物資が載っているが、災害弱者の障がい者、女性、子どもに対する救援物資の備蓄並びに避難所における災害弱者への配慮について伺う。</p> <p data-bbox="579 936 1310 974">(2)避難所への公衆無線LANの設置予定について伺う。</p> <p data-bbox="555 1077 967 1115">2 障がい者支援について</p> <p data-bbox="555 1176 1410 1310">自宅で家族と一緒に生活している障がい者が、社会の中で町民との関わりが持てるよう、安心して気軽に立ち寄り集える場所や機会が必要だと思うが、町長の考えを伺う。</p>	

質 議	問 席	者 氏	事 項
7	佐藤幸一	<p>1 しみず温泉フロイデ案内看板の撤去について</p> <p>昨年、町外の方が道路沿線の看板に誘導され温泉へ着いたが、無駄足だったと憤慨していた。このようなケースは恐らく相当数あるかと思う。</p> <p>町では看板を撤去できないとのことだが、撤去する方法を考えるべきと思う。</p> <p>次の点について伺う。</p> <p>(1) 看板設置箇所は道路と道路以外の町有地に何箇所あるか。 (2) 道路占用料と財産使用料の調定額はそれぞれいくらか。 (3) 一般的に、所有者が使用料を滞納した場合や支払う意思がない場合はどう対処するのか。</p> <p>2 協働のまちづくりについて</p> <p>まちづくり基本条例が施行されて 14 年目を迎えようとしている。次の案件は、広く町民の意見を聞くべきだったと思うが、パブリックコメントを行わなかった理由を伺う。</p> <p>(1) 保育所給食業務の民間委託 (2) 公衆浴場の入浴料の改正 (3) 中央公民館の室名変更</p> <p>3 公衆浴場の管理について</p> <p>4月から入浴料金が大人 450 円となるが、この料金には光熱水費や諸経費が加味されて設定された額だと思う。</p> <p>ところが、「経費節減のお願い」として、「21 時 30 分以降はシャワーの電源を停止する。照明器具についても一部消灯する」との張り紙があるが、これの意味するものは何か。</p>	

質 議	問 席	者 氏	事 名	項
5	鈴木孝寿	1 新型コロナウイルス感染症における本町の対策について	<p>新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、学校の休校や文化活動をはじめ、様々な分野が停滞している。北海道の方針及び国の方針が今後示され、対策が具体的になってくると思われるが、本町として独自に行う対策について伺う。</p> <p>(1) 商工業者等に対する、経済的な支援について (2) 学校の休校によって自宅対応による経済的損失について (3) マスク等衛生用品不足による住民への健康意識等のケアについて (4) 災害用備蓄品の利活用について</p>	2 ふるさと納税の停滞について
		<p>ふるさと納税においては、昨年の議会においても議論されたが、その際に新規に業務委託を行い飛躍的に伸びていくことが期待されていたが、現在の段階においては残念ながら微増という結果が見えている。令和2年度以降も業務委託を考えているようだが、どのような考え方の下で委託するか伺う。</p>	3 結婚・少子化対策について	
		<p>内部的にはA評価の事業だが、昨年の議会時にこのやり方では成果が上がらないと一般質問を通じて疑問を呈したところである。実施した本事業の成果と令和2年度の進め方及び次の点について伺う。</p>	<p>(1) 男子図鑑掲載者へのフォローはいつまで行政で担ってくれるのか。 (2) 男子図鑑を来年度以降行わない理由は何か。 (3) 掲載依頼を本年度も強制しているようだが、そもそも結婚は個人の自由なのではないか。 (4) 令和3年以降の考え方と事業実施の具体策は。</p>	

質 議	問 席	者 氏 名	質 問 事 項
2	川上	均	<p>1 小中学校教職員の働き方改革の取り組みについて</p> <p>子どもたち一人ひとりに寄り添うゆたかな教育を行うためには、教職員の生活時間を確保し、心身ともにゆとりをもって教育に専念できる環境整備が必要と叫ばれて久しいが、教職員の超勤・多忙化の現状は、未だ解消されていない。</p> <p>平成30年3月、北海道教育委員会は教員の時間外勤務等の縮減や外部人材の活用に向けた取り組みを、喫緊に対応するべく重点取組に位置付け、「学校における働き方改革北海道アクション・プラン」を策定した。内容については、道教委の役割として市町村立学校における働き方改革を進めるため、地域の実情に即した取り組みを促進し、支援を行うとしている。</p> <p>先生方の子どもたちと向き合う時間を確保し、健康でいきいきとやりがいを持って働ける環境の構築は、子どもたちにとっても大変重要であり、ワークライフバランスを意識した働き方改革を推進していかなくてはならない。</p> <p>しかし、部活動及び少年団指導、小学校の新学習指導要領の本格実施に伴う英語教育と道徳の教科化、プログラミング教育の導入など、教職員が取り組む課題は増大しており、働く上での超勤・多忙化にますます拍車がかかることが懸念される。</p> <p>これらの解消のためにも、学校の実態、現場の教職員の声を反映したさらなる取り組みが重要であると考えことから、次の4点について教育長の考えを伺う。</p> <p>(1)教職員の働き方改革は大変重要であるが、全ての基本となる出退勤の勤務時間管理の状況と今後の取り組みについて伺う。</p> <p>(2)北海道教育委員会は、平成30年3月に道内全ての学校で働き方改革を行うための業務改善の方向性を示した「学校における働き方改革『北海道アクションプラン』」を作成したが、「清水町立学校における働き方改革推進プラン」の策定状況及び策定時に学校との連携・協議はされたのか、そして現状の課題等について伺う。</p>

質	問	者
議	席	氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
議		氏
		<p>(3) スポーツ庁や道は「部活動の在り方に関する方針」を策定したが、「清水町における部活動の在り方に関する方針」の策定状況及び策定時に学校との連携・協議はされたのか、そして現状の課題等について伺う。</p> <p>(4) 令和2年度の教育行政執行方針にG I G Aスクール構想について検討するとされているが、その内容について伺う。併せて、教職員の超勤・多忙化を少しでも解消するためにも、I C Tの活用は今後ますます重要と考えるが、教育長の考えを伺う。</p>

質 議 席	問 者 氏 名	質 問 事 項
6	高橋政悦	<p>1 本町における消防組織の現状について</p> <p>常備消防の広域再編として、平成28年度にとまち広域消防としてスタートし、4年が経過しようとしている。</p> <p>一方、旧西十勝消防組合傘下にあった消防団は、構成市町村組織下に置かれ、効率化を目指した常備消防組織とは逆行し、「自賄い消防」そのものであり、指揮命令系統も複雑であるように見受けられる。</p> <p>広域化後5年で、統一平準化を目指すとしていた体制について、現状と5年目を迎える来年度に行うべき課題を問う。</p> <p>また、災害時初動体制を担う消防組織として、消防署と消防団の連携、住民の安全・安心確保に向けて、本町の成すべき今後について問う。</p> <p>2 地域おこし協力隊について</p> <p>人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度として、平成21年から運用され、本町も平成22年より受け入れ、現在も継続されている。</p> <p>もともと、地域おこし協力隊という制度はあくまで地方自治体に対する国の特別交付税措置とされていると認識している。とはいえ、基本的には地域おこし協力隊は期限付き公務員として、常勤公務員の下に配属される形式になっていると思う。</p> <p>本来なら新たな事業を興そうとする若者たちを束ね、サポートするスキルが自治体側には求められると考えるが、そこがあまり考慮されずに配置先が選定されていて、業務内容が限定されているように感じる。</p> <p>結果として、協力隊員も自分がイメージした活動ができずにいると感じるが、現状に対して行政の考え方を問う。</p>